

## 地方議員研究会 報告書

市民クラブ

大森 俊和



8月24日 東京都八重洲に於いて研修会に参加をしてきました。テーマは公会計改革による自治体「経営」として研修を受けて来ました。

- ・ 「カネ」はなくとも「資産」で経営
- ・ フルコストが見えれば「改革」が見える
- ・ 決算重視と成果指標の設定

以上の三つの内容を柱として受講をしました。

今、全国では庁舎のリース方式での整備（愛知県高浜市）や、学校プールを室内プールでの共用化など、公共施設マネジメントの分野でも、単に総面積の削減のために施設の統廃合を進める手法以外に、従来の発想を転換させて財源確保効果を生み出す事例が目立ってきている。

現在、多くの自治体が「公共施設等総合管理計画」の策定「新地方公共会計」の導入、さらには、下水道会計等に求められている「地方公営企業会計の適用」への対応によって、保有する「資産」情報活用の整備に取り組み、公共施設マネジメントに活かす方策を始めている。この検討を進めるためには、基礎データ確保のために固定資産台帳を整備することが大事である。ここで、「資産」はもっぱら資産を取得時の価格を基に「価値」の測定がなされているのが、公共施設の持つ「価値」は、ある意味で負債的な側面も併せ持つことに留意しなければならない。

その他、様々な視点で事例を挙げての研修であり、現在の三次市に於ける課題と重なる事が多くあり、大変に勉強となった研修会であった。今後、三次市に於いて今回の研修を活かしていきたいと思ひ研修を終えました。